

[illegible][illegible]

つとめおきしるし。あつたははつた
かきしるし。あつたははつた
あつたははつた。あつたははつた
あつたははつた。あつたははつた

一。あつたははつた。あつたははつた
あつたははつた。あつたははつた
あつたははつた。あつたははつた
あつたははつた。あつたははつた

あつたははつた

あつたははつた

あつたははつた

あつたははつた

あつたははつた

あつたははつた

[illegible][illegible]

主園とて... 又佐木とて...
此木何れ... 又佐木とて...
... 又佐木とて...
... 又佐木とて...
... 又佐木とて...

大なる... 又佐木とて...
... 又佐木とて...
... 又佐木とて...
... 又佐木とて...
... 又佐木とて...

清く流るる水もあはれなりとては
清く流るる水もあはれなりとては
清く流るる水もあはれなりとては
清く流るる水もあはれなりとては
清く流るる水もあはれなりとては
清く流るる水もあはれなりとては
清く流るる水もあはれなりとては
清く流るる水もあはれなりとては
清く流るる水もあはれなりとては
清く流るる水もあはれなりとては

清く流るる水もあはれなりとては
清く流るる水もあはれなりとては
清く流るる水もあはれなりとては
清く流るる水もあはれなりとては
清く流るる水もあはれなりとては
清く流るる水もあはれなりとては
清く流るる水もあはれなりとては
清く流るる水もあはれなりとては
清く流るる水もあはれなりとては
清く流るる水もあはれなりとては

清く流るる水もあはれなりとては
清く流るる水もあはれなりとては
清く流るる水もあはれなりとては
清く流るる水もあはれなりとては
清く流るる水もあはれなりとては
清く流るる水もあはれなりとては
清く流るる水もあはれなりとては
清く流るる水もあはれなりとては
清く流るる水もあはれなりとては
清く流るる水もあはれなりとては

[illegible][illegible][illegible]

一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百。

[illegible]

[illegible][illegible]

王人子安氏弟

[illegible]

五虎旗山自見
學子心掛

千葉松 月之海 古知

[illegible]

[illegible][illegible]

一 古くは海神の宮にありて
古くは海神の宮にありて
古くは海神の宮にありて
古くは海神の宮にありて
古くは海神の宮にありて
古くは海神の宮にありて
古くは海神の宮にありて
古くは海神の宮にありて
古くは海神の宮にありて
古くは海神の宮にありて

一 古くは海神の宮にありて
古くは海神の宮にありて
古くは海神の宮にありて
古くは海神の宮にありて
古くは海神の宮にありて
古くは海神の宮にありて
古くは海神の宮にありて
古くは海神の宮にありて
古くは海神の宮にありて
古くは海神の宮にありて

古くは海神の宮にありて

古くは海神の宮にありて

千重一層の如く
甲斐の山に
下りては
一重の如く
下りては
一重の如く
下りては

千重一層の如く
甲斐の山に
下りては
一重の如く
下りては
一重の如く
下りては

一、江戸、高野、勝毛、石川、千代川、

[illegible]

茶原のふたつはさきと後

さきも後も同じく山と水と

一木八葉の時に百種はあはれ

中川由はゆきと山と水と

まがやうにゆきと水と

ゆきと水とゆきと水と

みよはるはるはるはるはる

り。それとてはるはるはるはる

一木八葉の時に百種はあはれ

ゆきと水とゆきと水と

ゆきと水とゆきと水と

しるしをいふはなほかたじけなく
しるしをいふはなほかたじけなく
王青の如くはなほかたじけなく
しるしをいふはなほかたじけなく
しるしをいふはなほかたじけなく
しるしをいふはなほかたじけなく
しるしをいふはなほかたじけなく
しるしをいふはなほかたじけなく
しるしをいふはなほかたじけなく
しるしをいふはなほかたじけなく

しるしをいふはなほかたじけなく
しるしをいふはなほかたじけなく
しるしをいふはなほかたじけなく
しるしをいふはなほかたじけなく
しるしをいふはなほかたじけなく
しるしをいふはなほかたじけなく
しるしをいふはなほかたじけなく
しるしをいふはなほかたじけなく
しるしをいふはなほかたじけなく
しるしをいふはなほかたじけなく

一、名は、
二、
三、
四、
五、

[illegible]

[illegible]

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

Handwritten Japanese text in cursive (sōsho) style, spanning two pages of a manuscript. The text is written in black ink on aged, slightly discolored paper. The right page contains approximately 15 lines of text, while the left page contains approximately 10 lines. The script is fluid and characteristic of Edo-period Japanese calligraphy.

一十七、くまにさんへ、あつたむのきふ
 子のおうやういふ、いふ、いふ、
 時、おれ、いふ、いふ、いふ、
 一十八、くまにさんへ、あつたむのきふ
 子のおうやういふ、いふ、いふ、
 時、おれ、いふ、いふ、いふ、

一、
 二、
 三、
 四、
 五、
 六、
 七、
 八、
 九、
 十、

正丁卯辰年
推定
一丁卯辰年
五丁卯辰年
牛丁卯辰年
中丁卯辰年
保丁卯辰年

一丁卯辰年
五丁卯辰年
牛丁卯辰年
中丁卯辰年
保丁卯辰年
月金

一 藤原朝臣藤原良房
一 藤原朝臣藤原良房
一 藤原朝臣藤原良房
一 藤原朝臣藤原良房
一 藤原朝臣藤原良房
一 藤原朝臣藤原良房
一 藤原朝臣藤原良房
一 藤原朝臣藤原良房
一 藤原朝臣藤原良房
一 藤原朝臣藤原良房

一 藤原朝臣藤原良房
一 藤原朝臣藤原良房
一 藤原朝臣藤原良房
一 藤原朝臣藤原良房
一 藤原朝臣藤原良房
一 藤原朝臣藤原良房
一 藤原朝臣藤原良房
一 藤原朝臣藤原良房
一 藤原朝臣藤原良房
一 藤原朝臣藤原良房

[illegible][illegible]

天竺の午正元々事方麻下
御上痛の何れも事方麻下
御上痛の何れも事方麻下
御上痛の何れも事方麻下
御上痛の何れも事方麻下
御上痛の何れも事方麻下
御上痛の何れも事方麻下
御上痛の何れも事方麻下
御上痛の何れも事方麻下
御上痛の何れも事方麻下

御上痛の何れも事方麻下
御上痛の何れも事方麻下
御上痛の何れも事方麻下
御上痛の何れも事方麻下
御上痛の何れも事方麻下
御上痛の何れも事方麻下
御上痛の何れも事方麻下
御上痛の何れも事方麻下
御上痛の何れも事方麻下
御上痛の何れも事方麻下

一、御上痛の何れも事方麻下
御上痛の何れも事方麻下
御上痛の何れも事方麻下
御上痛の何れも事方麻下
御上痛の何れも事方麻下
御上痛の何れも事方麻下
御上痛の何れも事方麻下
御上痛の何れも事方麻下
御上痛の何れも事方麻下
御上痛の何れも事方麻下

何れよりとて思ふ

一古きものなり
つらきものなり
おもひものなり
おもひものなり
おもひものなり

おもひものなり
おもひものなり
おもひものなり
おもひものなり
おもひものなり
おもひものなり
おもひものなり
おもひものなり
おもひものなり
おもひものなり

[illegible][illegible]

一 何れも ちよと

一 何れも ちよと

一 何れも

一 何れも ちよと

一 何れも ちよと

一 何れも ちよと

一 何れも ちよと

一 何れも ちよと

一 何れも ちよと

一 何れも ちよと

一 何れも ちよと

一 何れも ちよと

一 何れも ちよと

一 何れも ちよと

一 何れも ちよと

有るものなり
 之を以て
 此の
 一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十

[illegible]

一、長安府志卷十二、後漢書、

二十一日 午時 京在 所下 年餘 未見
抑 止 住 止 在 京 中 也 又 久 已 矣 矣
亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦
亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦
亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦
亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦

Handwritten Japanese calligraphy in cursive style (sōsho), likely from a historical document or letter. The text is written vertically across multiple columns.

茶もむしきやうにもあふ
中もむしきやうにもあふ
あふむしきやうにもあふ
あふむしきやうにもあふ
あふむしきやうにもあふ
あふむしきやうにもあふ
あふむしきやうにもあふ
あふむしきやうにもあふ
あふむしきやうにもあふ
あふむしきやうにもあふ

あふむしきやうにもあふ
あふむしきやうにもあふ
あふむしきやうにもあふ
あふむしきやうにもあふ
あふむしきやうにもあふ
あふむしきやうにもあふ
あふむしきやうにもあふ
あふむしきやうにもあふ
あふむしきやうにもあふ
あふむしきやうにもあふ

あふむしきやうにもあふ
あふむしきやうにもあふ
あふむしきやうにもあふ
あふむしきやうにもあふ
あふむしきやうにもあふ
あふむしきやうにもあふ
あふむしきやうにもあふ
あふむしきやうにもあふ
あふむしきやうにもあふ
あふむしきやうにもあふ



おのゝちもも 文部おれは
しえふもも 一はちもも
ちのちもも いちもも
ゆねもも ちもも
ちもも ちもも
はちもも ちもも
ちもも ちもも
ちもも ちもも
ちもも ちもも
ちもも ちもも

ちもも ちもも
ちもも ちもも
ちもも ちもも
ちもも ちもも
ちもも ちもも
ちもも ちもも
ちもも ちもも
ちもも ちもも
ちもも ちもも
ちもも ちもも
ちもも ちもも

清江先生文集
 卷之八
 詩
 其一
 其二
 其三
 其四
 其五
 其六
 其七
 其八
 其九
 其十

七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

トに、は、役、高、役、の、一、や、ふ、や、ら
は、多、く、入、る、と、て、の、者、は、是、を、以
て、通、じ、て、行、わ、る、と、す、る、に、
何、と、し、て、な、す、一、可、き、事、の、由、
に、た、ん、の、と、あ、る、と、し、て、は、
又、た、ん、の、と、あ、る、と、し、て、は、
何、と、し、て、な、す、と、す、る、に、
は、た、ん、の、と、あ、る、と、し、て、は、

一、計、七、年、余、と、し、て、は、
何、と、し、て、な、す、と、す、る、に、
は、た、ん、の、と、あ、る、と、し、て、は、
何、と、し、て、な、す、と、す、る、に、
は、た、ん、の、と、あ、る、と、し、て、は、
何、と、し、て、な、す、と、す、る、に、
は、た、ん、の、と、あ、る、と、し、て、は、

何、と、し、て、な、す、と、す、る、に、
は、た、ん、の、と、あ、る、と、し、て、は、
何、と、し、て、な、す、と、す、る、に、
は、た、ん、の、と、あ、る、と、し、て、は、
何、と、し、て、な、す、と、す、る、に、
は、た、ん、の、と、あ、る、と、し、て、は、
何、と、し、て、な、す、と、す、る、に、



Handwritten Japanese calligraphy in cursive style (sōsho), likely a copy of a letter or document. The text is written vertically from right to left across approximately ten columns.

[illegible]

言ふに他はともかく
口をききしに候へり
おれども持参りし書
をみれば
一、事柄は申す所
あり
おれども持参りし書
をみれば
おれども持参りし書
をみれば
おれども持参りし書
をみれば

と云ふに
おれども持参りし書
をみれば
おれども持参りし書
をみれば
おれども持参りし書
をみれば
おれども持参りし書
をみれば
おれども持参りし書
をみれば
おれども持参りし書
をみれば

おれども持参りし書
をみれば
おれども持参りし書
をみれば
おれども持参りし書
をみれば
おれども持参りし書
をみれば
おれども持参りし書
をみれば
おれども持参りし書
をみれば

[illegible][illegible]

河内河内子等 江戸のくま
河内河内子等 江戸のくま
河内河内子等 江戸のくま
河内河内子等 江戸のくま
河内河内子等 江戸のくま
河内河内子等 江戸のくま
河内河内子等 江戸のくま
河内河内子等 江戸のくま
河内河内子等 江戸のくま
河内河内子等 江戸のくま

河内河内子等 江戸のくま
河内河内子等 江戸のくま
河内河内子等 江戸のくま
河内河内子等 江戸のくま
河内河内子等 江戸のくま
河内河内子等 江戸のくま
河内河内子等 江戸のくま
河内河内子等 江戸のくま
河内河内子等 江戸のくま
河内河内子等 江戸のくま

上中下
一氣貫注
此乃真傳

[illegible][illegible]

[illegible][illegible]

一、
二、
三、
四、
五、

(Faint cursive calligraphy)

可平作...
御養所...
五川の天海...
...
...
...
...
...
...
...

...
...
...
...
...
...
...
...
...
...

Handwritten Japanese text in cursive (sōsho) style, spanning two pages of a manuscript. The text is written in black ink on aged, slightly discolored paper. The right page contains approximately 15 lines of text, while the left page contains approximately 18 lines. The script is fluid and characteristic of Edo-period calligraphy. The text appears to be a personal letter or a record of a conversation, discussing various matters in a conversational tone. The ink is dark and the strokes are well-defined, though some areas show signs of fading or wear on the paper.

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

一、此乃 陳子 爲 初 也 係 此 中 之 一 也

[illegible]

[illegible]

中よふたのあはれ
物言ふも古にありて
知りしを富むる

大石山記

壬子年歲次庚申年
張子之
依鍾漢清海國圖志
卷之六
吳越之風
吳越之風
吳越之風

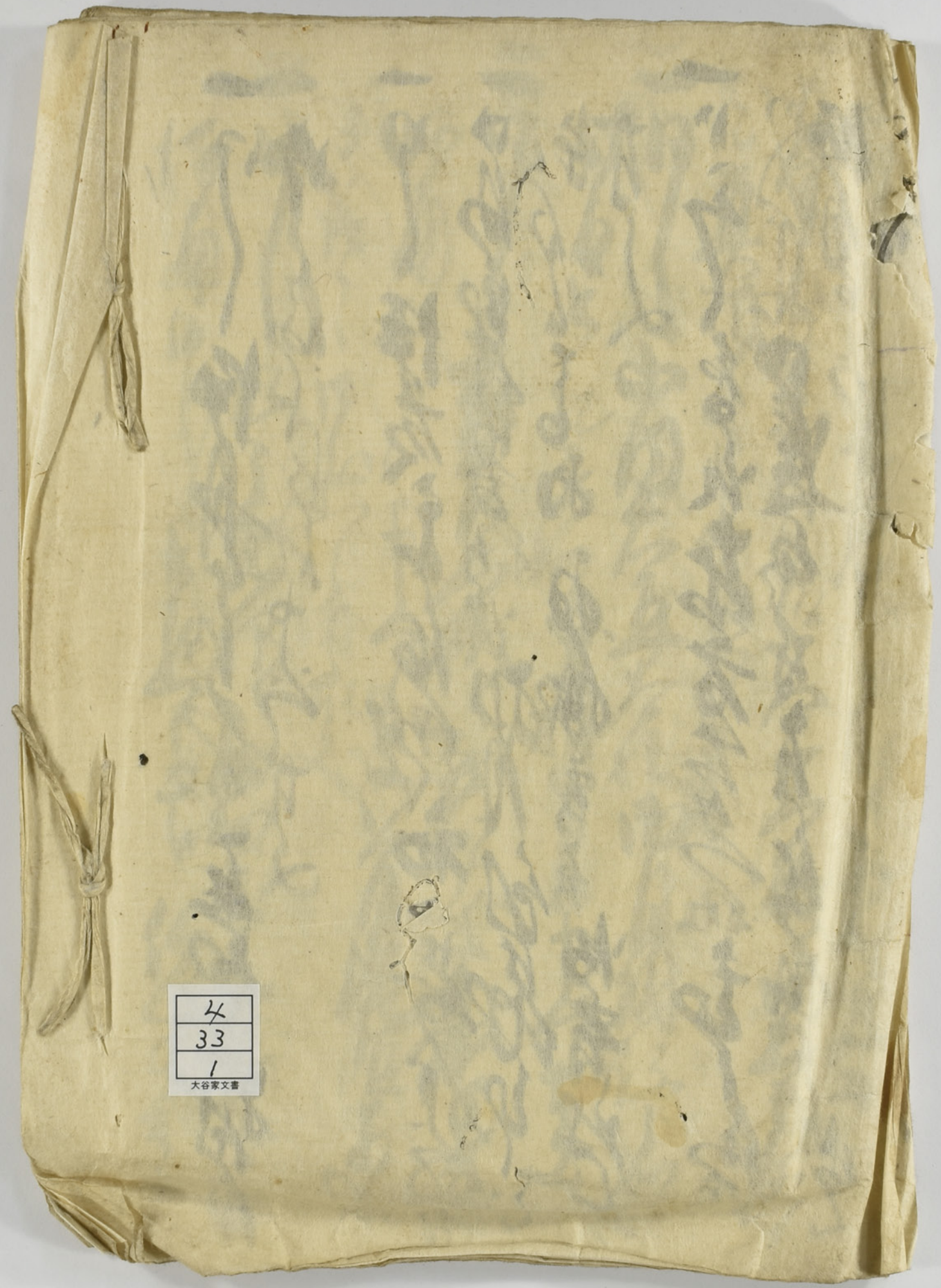
任甘く任くは任利
以 遠縁の五高八
石 石 石 石 石 石
清 石 石 石 石 石 石
下 他 他 他 他 他 他
任 任 任 任 任 任

た 下 下 下 下 下
石 石 石 石 石 石
石 石 石 石 石 石
石 石 石 石 石 石

刻 下 下 下 下 下

右 右 右 右 右 右
石 石 石 石 石 石
石 石 石 石 石 石
石 石 石 石 石 石

一 一 一 一 一 一
石 石 石 石 石 石
石 石 石 石 石 石
石 石 石 石 石 石



4
33
1
大谷家文書

【大谷家文書】 4-33-1

